Agriculture

オイルレス エアコンプレッサ

OILLESS AIR COMPRESSOR 型式 AG-3060NF

静音タイプ

取扱説明書

この度はオイルレスエアコンプレッサをお買い求めいただきありがとうございます。末長くご愛用いただくため、本取扱説明書をよくお読みいただき、必ず保管してください。

もくじ

●**はじめに** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **2**
・オイルレスエアコンプレッサについて・・・・ 2
・仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
●**安全上のご注意** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **3**
・ご使用前 ⚠ 警告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
・ご使用前 ⚠ 注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
・ご使用中 ⚠ 警告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
・ご使用中 ⚠ 注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
・ご使用後 ⚠ 警告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
・ご使用後 ⚠ 注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
●**点検** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **7**
・点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
●**各部の名称** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **8**
・主要各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
・主要各部の名称と機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
・部品別売表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
●**安全装置について** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **10**
・安全弁 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
・サーキットブレーカ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
●**ご使用前に** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **12**
・準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
・試運転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
・ワンタッチカプラソケットの取り付け・・・・ 15
●**使用する** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **16**
・運転手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
・使用するにあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
●**作業を終了させる** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **18**
・終了手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
●**エアツールの接続例** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **20**
●**故障かな？と思ったら** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **21**
●**保守と点検** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **22**
・エアフィルタ（吸気口用）の点検 ・・・・・・・・・ 22
・エアフィルタ（吸気口用）の交換 ・・・・・・・・・ 22
・保管について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
●**エアツール適合表** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **23**

必要電源環境	**延長コード：VCTF 2SQ×4C（4芯） プラグ、コネクタ（ソケット）：接地3P 20Aタイプ**

◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

株式会社パオック

外観、仕様などは製品改良のため、一部変更することがありますので、ご了承ください。

はじめに

この度は **Agriculture** オイルレスエアコンプレッサをお買い求めいただきありがとうございます。
いつまでも安全にお使いいただくため、ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、取扱上の注意事項、本機の特長、能力、使い方などを十分理解された上でご使用くださいますようお願い申し上げます。

オイルレスエアコンプレッサについて

◆オイルレスエアコンプレッサは、各種エアツールの動力源となる圧縮空気を供給するための、空気圧縮機です。市販のエアツールを接続することで、様々な用途に使用することができます。

例）釘打ち、ステープル止め、塗装、グリースガン、エアブラシ、空気入れ、汚れ落とし、噴霧作業等

◆本製品は、給油不要のオイルレスタイプです。オイル漏れの心配がなくメンテナンスも簡単。また、圧縮空気にオイルが混入しないため、クリーンな圧縮空気をエアツールに供給できます。

◆本製品は、レシプロタイプです。内部のピストンがシリンダ内を上下することにより、圧縮空気が作られます。

※作業の際は、必ず使用工具などの必要圧力・空気量等をご確認の上、用途に応じてお使いください。
※圧縮された空気に、気温により水分が発生したり、ホコリ等が一緒に吐出されることもあるため、電子部品等の清掃や乾燥には使用しないでください。
※用途以外のご使用は、重大な損害や事故の原因になりますので、絶対におやめください。
※品質改良のため、外観・仕様など一部変わることがありますので、ご了承ください。

仕　様

型　　式		AG−3060NF		最高使用圧力	約0.8MPa
定格電圧		接地三極三相200V㋮		再起動圧力	約0.6MPa
電動機出力		2.2kW（1.1kW×2基）		タンク容量	60L（30L×2連）
定格周波数		50Hz	60Hz	吐出口ねじ径	R1/4・Rc1/2
定格電流		11A	10A	作動音	約75dB（フィルタ取付時）
流量（参考値）	0.1MPa時	280L/min	300L/min	サイズ	約L780×D530×H750mm
	0.2MPa時	250L/min	270L/min	質　　量	約75kg
	0.4MPa時	210L/min	230L/min	付属品	・Rc1/4ワンタッチカプラソケット……1個 ・パイプシール（シールテープ）‥1個 ・取扱説明書……1部
	0.6MPa時	170L/min	190L/min		
	0.8MPa時	130L/min	150L/min		

安全上のご注意

安全作業上、事故を未然に防ぐため、次に述べる注意事項をよくお読みの上、指示に従ってください。
本取扱説明書の注意事項は、「⚠警告」、「⚠注意」に区分されています。

⚠ 警 告 **この表示は取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。**

⚠ 注 意 **この表示は取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合、および物的損害の発生が想定される内容を表しています。**
なお、⚠注意に記載した事項でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重大な内容を記載しておりますので必ず遵守してください。

ご使用前 ⚠ 警 告

1．ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みいただき、使い方を十分理解してください。

2．作業はきちんとした服装で行ってください。
・作業環境に応じて、ヘルメット、保護メガネ、耳あて、防じんマスク、手袋、安全靴等の保護具を着用してください。

3．作業場の周囲状況も考慮してください。
・雨の中で使用したり、湿った、または濡れた場所で使用しないでください。
・可燃性の液体や、ガスのあるところでは使用しないでください。

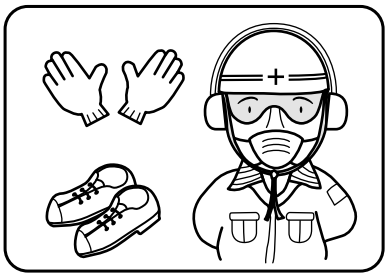
4．ゴミやホコリの多い場所には設置しないでください。
・加熱事故や異常磨耗の原因になります。

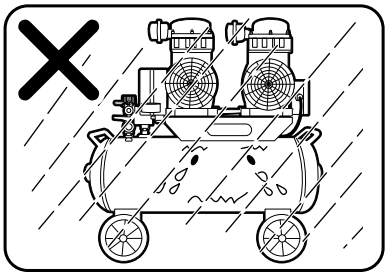
5．風通しを良くするため、塀・壁面から30～40cm位離して使用してください。

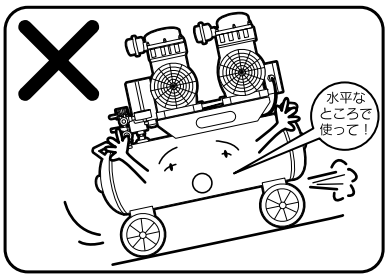
6．平らな固い地面を選んで設置してください。
・不安定な場所に設置すると、本機が移動や落下、転倒して事故の原因になります。

7．各部のボルトやねじにゆるみがないことを確認してください。
・故障や事故の原因になります。

8．使用電源は必ず接地三極三相200V㈿でご使用ください。







安全上のご注意

ご使用前 ⚠ 警 告

9．作業者以外、作業場へ近づけないでください。
・作業者以外、オイルレスエアコンプレッサやコードに触れさせないでください。

10．電源コードは乱暴に扱わないでください。
・電源コードを引っ張ってオイルレスエアコンプレッサを移動させたり、電源から抜いたりすると、電源コードを傷め、断線・短絡（ショート）の原因になります。
・電源コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。電源コード損傷の原因になります。

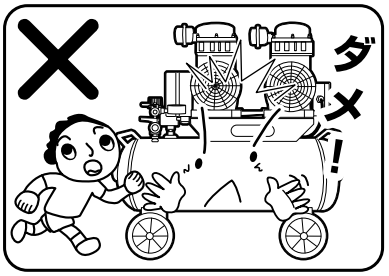
11．電源コードや差し込みプラグは定期的に点検してください。
・電源コードや差し込みプラグが損傷している場合は、すぐに交換が必要です。お買い求めの販売店または当社までご連絡ください。
・電源コードや差し込みプラグが傷んだまま使いますと、やけど・感電・火災などの原因となります。

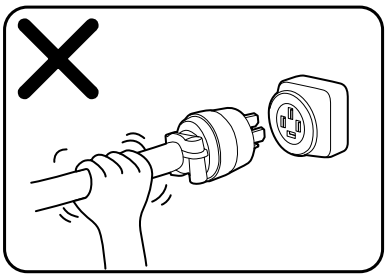
12．差し込みプラグの分解はしないでください。
・誤った組み付けをして使用すると、感電・火災などの原因となります。

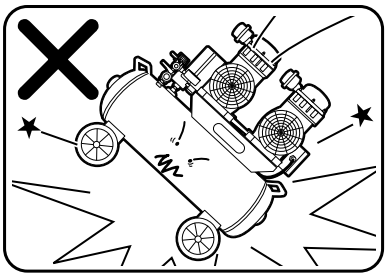
13．本機は大切に取り扱ってください。
・転倒や落下により、エアタンクに亀裂が入るなど、破損する恐れがあります。

14．本機の上に座ったり、重量物を載せたりしないでください。
・破損や亀裂、変形の原因になります。

15．不意な始動は避けてください。
・差し込みプラグを電源に差し込む前に、圧力スイッチと配線ボックス電源スイッチがOFFになっていること、及びエアホースが接続されていないことを確認してください。







ご使用前 ⚠ 注 意

1．作業場はいつも明るく、きれいにしてください。
・暗かったり、散らかった所での作業は事故の原因になります。

ご使用中　⚠ 警 告

1．空気の圧縮のみに使用してください。
・空気以外のガス（プロパン、アセチレン、酸素など）を吸入すると爆発する恐れがあります。

2．人体等の吸入用には使用しないでください。
・コンプレッサから吐出される空気は、人体等には絶対に使用しないでください。

3．揮発性可燃物のそばでは使用しないでください。
・引火または爆発の恐れがあるため危険です。

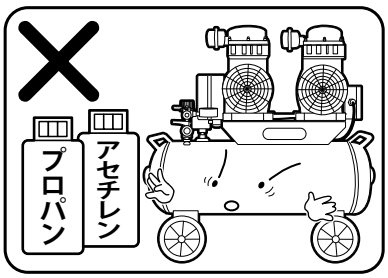
4．箱の中や、狭い場所(密閉された車内など)では使用しないでください。
・異常発熱を招き、故障・事故の原因となることがあります。

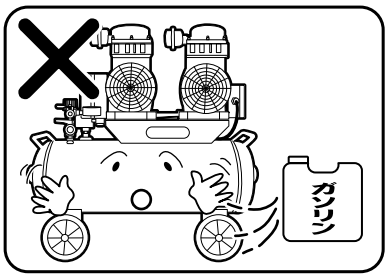
5．エアホースを接続する前に、エアホースとエアプラグが完全に固定されていることを確認してください。
・固定が不完全だと、外れて事故の原因になりす。

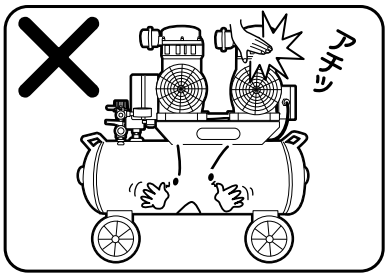
6．開口部や、ファン部に異物を入れたり、近づけたりしないでください。
・巻き込みなどにより、故障や事故の原因になります。

7．エア工具は、必ず使用空気圧力の範囲内で使用してください。
・製品の寿命を縮めたり、故障や事故の原因になります。

8．運転時、運転直後の金属部は絶対に素手で触らないでください。
・空気の圧縮熱で高温になっています。やけどの恐れがありますので、本機の移動などは熱が下がってから行ってください。





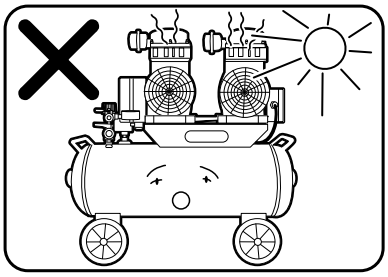


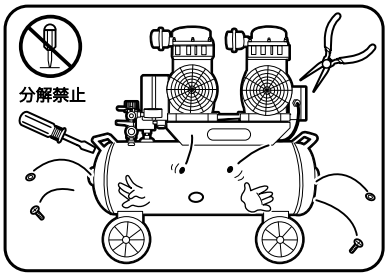
ご使用中　⚠ 注 意

1．本機の運転中に異常音が発生したり、安全弁の作動によるタンク内圧力の低下がみられた場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または当社までご連絡ください。

安全上のご注意

ご使用後 ⚠ 警 告





1．圧力スイッチをOFFにし、配線ボックス電源スイッチをOFFにしてから差し込みプラグを電源から抜いてください。

2．エアコックをゆっくりゆるめてエアタンク内の圧縮空気を全て抜いた後、ドレンコックをゆるめてエアタンク内のドレン（水）を抜いてください。
・ドレン（水）を抜かないと、エアタンクを傷める恐れがあります。

3．圧縮空気とドレン（水）を抜く場合は、顔をドレンコック及びエアコック付近に近づけないでください。
・圧縮空気やドレン（水）の排出によって耳を傷めたり失明の恐れがあります。

4．エアタンク内の圧縮空気が全て抜けてから、エアホースを外してください。
・タンク内に圧縮空気が残ったままエアホースを外すと、カプラプラグが跳ね、けがや事故の原因になります。

5．空気充填のまま長時間直射日光に当てたり、高温になる場所に放置しないでください。
・エアタンク内の圧縮空気が更に高圧になり、エアタンクが破裂する恐れがあります。

6．本機を分解、改造しないでください。
・事故やけが、故障の原因になります。

7．損傷した部品がないか点検してください。

ご使用後 ⚠ 注 意

1．本機は、大切に手入れをしてください。
・運搬時の落下防止のため、ハンドルは常に乾かして、きれいな状態に保ち、油やグリスがつかないようにしてください。

2．環境保全のため、排出ドレンはきちんと管理してください。
・エアタンク内の排出ドレンは、トレイに受けて排出するよう管理してください。

3．使用しない場合は、きちんと保管してください。
・乾燥した場所で、子どもの手の届かない所、または鍵のかかる所に保管してください。
・落下の恐れがある所は避けてください。
・長期間ご使用にならない場合は、保管前にドレンコックを全開にし、５分程度の運転を行ってください。

作業終了後は、毎回必ずエアタンク内の圧縮空気とドレン（水）を全て抜いてください。ドレンを抜かないと、エアタンク内にサビが発生し、エアタンクの寿命を縮める原因となります。

点　検

※「安全上のご注意」（Ｐ３～Ｐ６）をよくお読みの上、作業を行ってください。

■付属品の確認　■本体の点検
■電源スイッチの確認

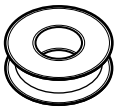
点　検

※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

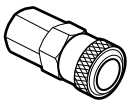
■ 付属品の確認

開梱後、次の物が揃っているか確認してください。

付属品



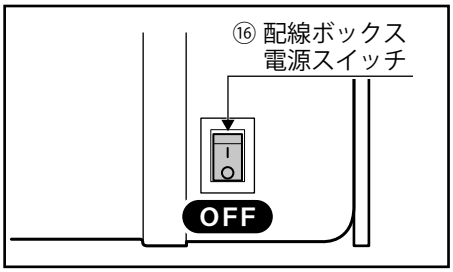
パイプシール
（シールテープ）・・・・・1



Rc1/4 ワンタッチ
カプラソケット・・・・・・1

■ 電源スイッチの確認

配線ボックス電源スイッチがＯＦＦになっていることを確認してください。
ＯＮになっている場合は、必ず差し込みプラグを電源に差し込む前に配線ボックス電源スイッチをＯＦＦにしてください。



■ 本体の点検

①タンクに亀裂・サビがないか確認

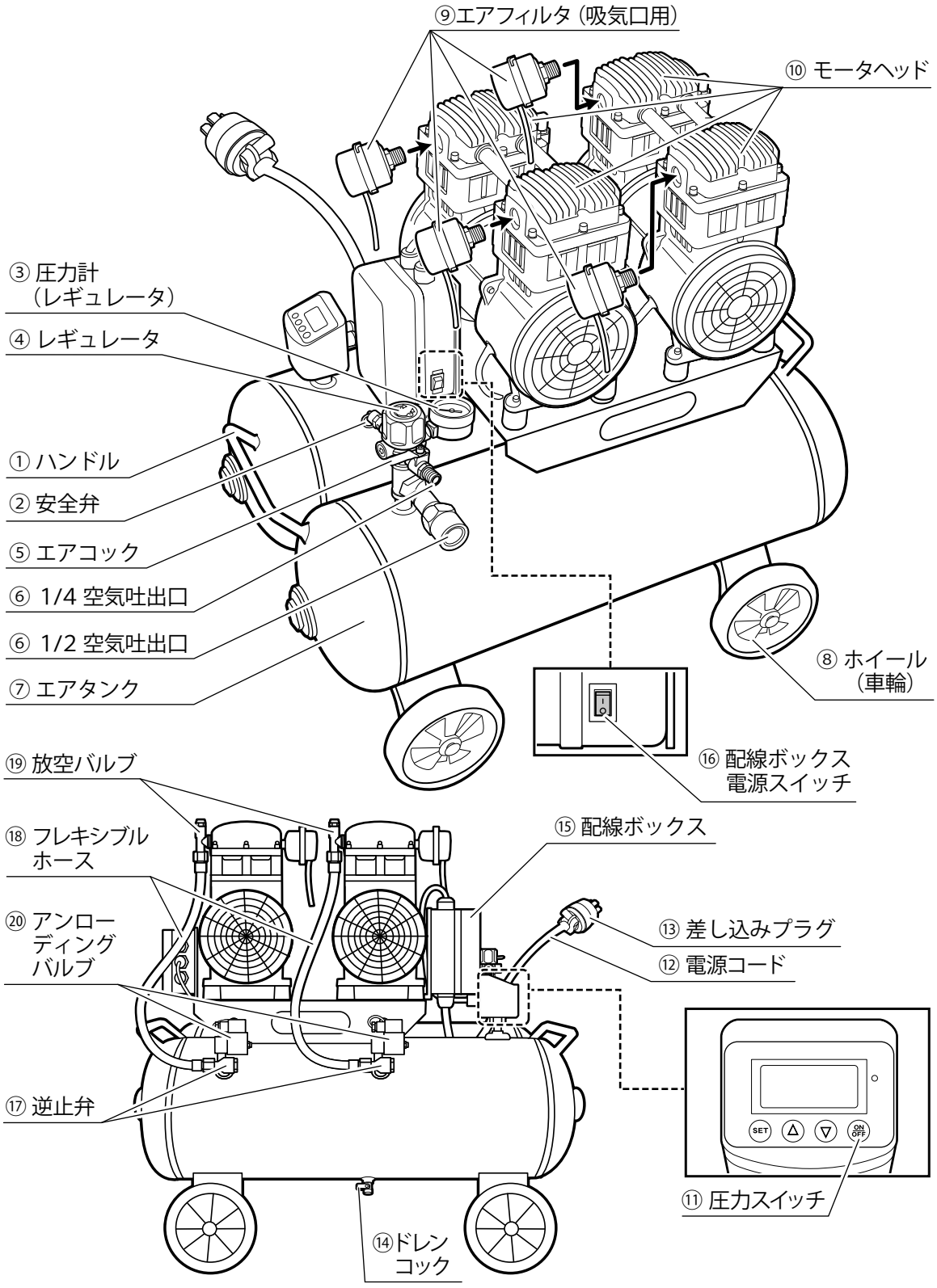
亀裂やサビは、事故・故障の原因となります。
作業前に必ず、タンクにひびや亀裂、サビなどがないか確認してください。

②各部のボルト・ナットの締め付け点検

事故や故障の原因となりますので、各部のボルト・ナットやねじにゆるみがないか確認してください。

各部の名称

■ 主要各部の名称



■ 主要各部の名称と機能

※★印部品については別売もございます。下記部品別売表をご参照ください。

		名　　称	機　　能
	①	ハンドル	本体移動の際に使用します。
	②	安全弁	タンク内が異常高圧になった場合に作動し、タンク内圧力を減圧します。
★	③	圧力計(レギュレータ)	吐出側の圧力を示します。
★	④	レギュレータ	吐出側の圧力を、タンク内圧力よりも低い設定圧力に調整します。
★	⑤	エアコック	1/4 空気吐出口の開閉に使用します。
	⑥	空気吐出口	圧縮空気が吐出されます。(1/4 と 1/2 の2種類あります。) ※この取扱説明書では、1/4 空気吐出口を例にして説明しています。
	⑦	エアタンク	圧縮空気が貯蔵されるタンクです。
	⑧	ホイール(車輪)	本体移動の際に使用します。
★	⑨	エアフィルタ(吸気口用)	吸入空気をろ過します。※取り付ける際は、シールテープは使用しないでください。
	⑩	モータヘッド	エアフィルタと放空バルブが取り付けられています。
	⑪	圧力スイッチ	圧力スイッチのON／OFF操作をします。エアタンク内の圧力を示します。
	⑫	電源コード	電源コードです。
	⑬	差し込みプラグ	差し込みプラグです。
★	⑭	ドレンコック	タンク内のドレン(水)を抜く際に使用します。
	⑮	配線ボックス	配線ボックスです。
	⑯	配線ボックス電源スイッチ	電源のON／OFF操作をします。
	⑰	逆止弁	タンクからのエア逆流を止めます。
	⑱	フレキシブルホース	放空バルブと逆止弁をつなぎます。
	⑲	放空バルブ	モータが安定回転するまで圧縮空気を逃がすことにより、起動時のモータ負荷を軽減します。 モータの過負荷が防止されることにより、製品の寿命が長くなります。 ※運転開始から約20秒間（0⇒0.1MPaまでの間)、放空バルブからエアが排出されますが、故障ではありません。 （タンク内空気圧が0.1MPaを超えるとエアの排出は停止します。）
	⑳	アンローディングバルブ	圧力スイッチと連動している部品です。 モータ停止後、モータヘッドとフレキシブルホース内に残ったエア(残圧)を排出します。 ※モータ停止後、３秒ほどエアの排出音がありますが、異常ではありません。

■ 部品別売表

番号	名　称	品 番	入数
③	コンプレッサ兼用圧力計(レギュレータ)	AR-1.4NF	1
④	コンプレッサ兼用レギュレータ	RE-NF	1
⑤	コンプレッサAOL兼用エアコック	ACS-1/4	1

番号	名　称	品 番	入数
⑨	コンプレッサ兼用エアフィルタ	AF-1/2	1
⑭	コンプレッサ兼用ドレンコック	DC-1/4R	1

安全装置について

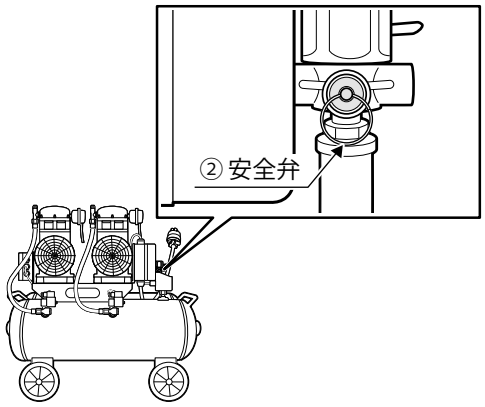
※本機には、安全を確保するため、次のような保護装置がついています。

■安全弁

※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

■ 安全弁　タンク内が異常高圧になった場合に作動し、タンク内圧を下げます。

本機は圧力スイッチにより、タンク内圧力が最高圧力まで達すると、自動的にモータの運転を停止します。
圧力スイッチの故障などにより、タンク内が異常高圧になった場合、安全弁が作動し、タンク内圧力を減圧します。
この場合は､直ちに使用を中止し､お買い求めの販売店または当社までご連絡ください。



⚠警告
安全弁はオイルレスエアコンプレッサを安全にご使用いただくために取り付けてありますので、絶対に外さないでください。

◎定期的に作動確認を行ってください。

運転状態で安全弁のリングを引いて、圧縮空気が排出されることを確認してください。
弁の動きがスムーズでない場合や、圧縮空気が排出されない場合は修理が必要です。お買い求めの販売店、または当社にご連絡ください。

⚠警告
・安全弁の確認の際は、安全弁の付近に顔を近づけないでください。
圧縮空気の排出によって、失明や耳を傷める恐れがあります。
・安全弁は過度に引かず、圧縮空気が排出されることを確認したらすぐに放してください。

※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

■サーキットブレーカ

本機はモータに無理がかかり、過負荷電流が生じた時にサーキットブレーカが作動し、停止します。

⚠警告

サーキットブレーカ作動後は､圧力スイッチをＯＦＦにし、配線ボックス電源スイッチをＯＦＦにしてください。
再起動した際に、不意な始動をする原因となり危険です。

①サーキットブレーカの再起動

⚠警告

サーキットブレーカを復帰させる場合は、サーキットブレーカが作動してから３～５分間待ってから行ってください。

サーキットブレーカが作動した場合は、下記の手順で復帰作業を行ってください。

1 圧力スイッチをＯＦＦにします。

2 配線ボックス電源スイッチをＯＦＦにします。

3 差し込みプラグを電源から抜きます。

4 ３～５分お待ちください。

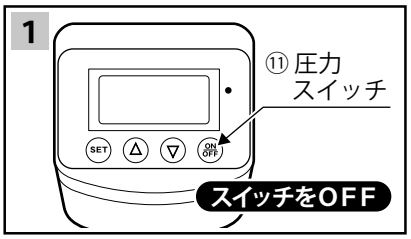
5 配線ボックスのねじをゆるめてカバーを開いてください。

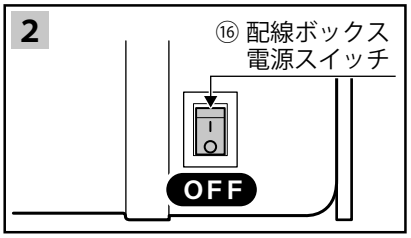
6 リセットボタンを押します。
※この時、配線部には絶対に触れないでください。感電の恐れがあります。

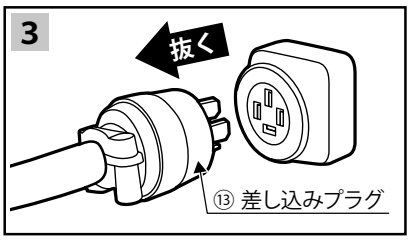
7 カバーを元通り取り付けます。
カバー下部のツメを配線ボックスに引っ掛けて閉め、上部をねじで固定してください。
※事故を防ぐため、カバーは必ず取り付けて使用してください。

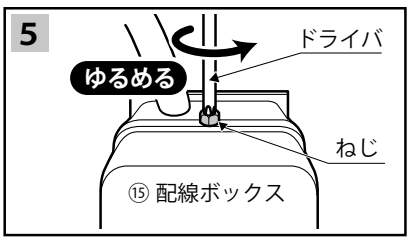
②オイルレスエアコンプレッサの始動

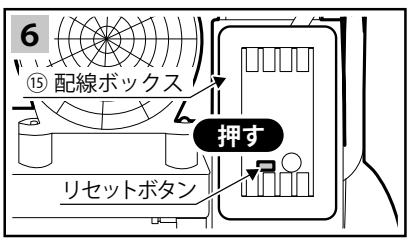
・スイッチがONの状態でタンク内圧力が約0.6MPa未満まで低下した場合はすぐに始動します。
・タンク内圧力が約0.6MPa以上の場合は、圧力スイッチは作動しません。
約0.6MPa未満になるまで圧縮空気を抜いてください。
エアコンプレッサが始動します。

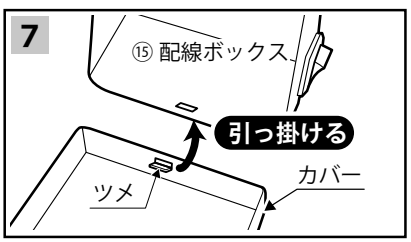












ご使用前に

※本製品は梱包前に機能テストを行っています。本機にはテスト時の圧縮空気が残っている場合がありますので、ご使用前には必ず全て抜いてください。

■エアタンク内のエア（空気）を抜く
■エアタンク内のドレン（水）を抜く

準　備

※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

■エアタンク内のエア（空気）を抜く

検査用の圧縮空気が残っている場合がありますので、エアコックをゆっくり開いて圧縮空気を抜きます。

⚠警告

圧縮空気を抜く際は、顔をエアコック付近に近づけないでください。けがの恐れがあります。

⚠注意

エアコックから圧縮空気を抜く場合は、空気吐出口にワンタッチカプラソケットが付いていないかお確かめください。
ワンタッチカプラソケットが付いていると、エアコックを開いても圧縮空気は出ません。その場合は、ワンタッチカプラソケットを外してからエアコックを開き、空気吐出口より圧縮空気を抜いてください。

■エアタンク内のドレン（水）を抜く

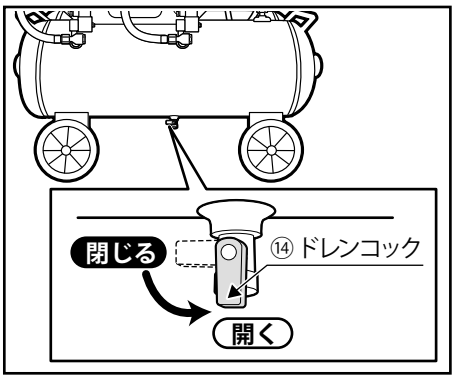
エアタンクの下部に付いているドレンコック（2ケ所）を、ゆっくり上に回してドレンを抜いてください。

⚠警告

- ドレンを抜く際は、顔をドレンコック付近に近づけないでください。けがの恐れがあります。
- ドレンを抜く前に、必ずエアタンク内のエアを抜いてください。
  エアが入っている状態でドレンを抜くと、事故やけがの恐れがあります。

⚠注意

- 使用するとエアタンク内にはドレンが溜まります。使用後は必ずドレンを抜いてください。
- 水などのドレンはドレンコックより出ます。ドレンコックの下にトレイなどを置き、ドレン（水）抜きを行ってください。



※電源を入れてモータの起動状況を確認してみましょう。　■電源スイッチを入れ、再起動の確認

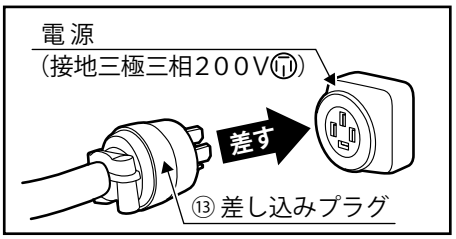
試運転

※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

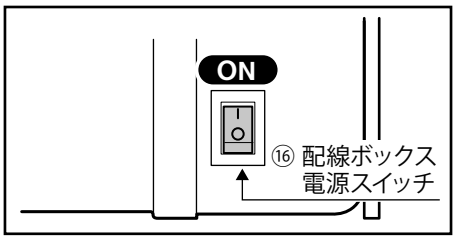
■ 電源スイッチを入れ、再起動の確認

①次の手順で電源を入れてください。

1．差し込みプラグを電源（接地三極三相２００Ｖ㊁）に差し込みます。

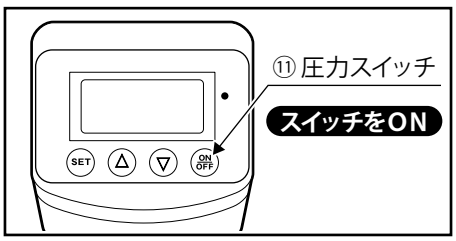


2．配線ボックスの電源スイッチをＯＮにします。



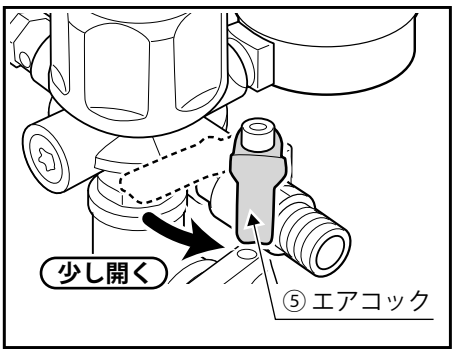
3．圧力スイッチをONにします。

モータが作動しエアタンク内に圧縮空気が送られます。この時、異常な音や振動がないことを確認してください。
圧縮空気が約0.8MPaになると、自動的にモータが止まります。



②エアコックを少し開きエアタンク内の圧縮空気を徐々に抜いてください。

エアタンク内の圧力が約0.6MPa未満に低下すると、モータが再起動します。
再起動が始まったらエアコックを再び閉じてください。



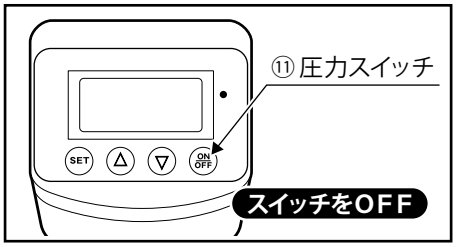
ご使用前に

試運転（つづき）

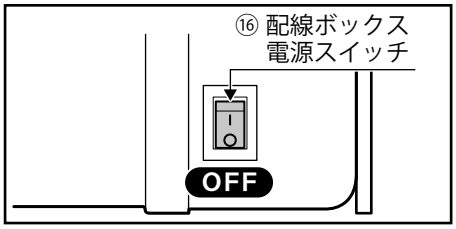
※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

③次の手順で電源を切ってください。

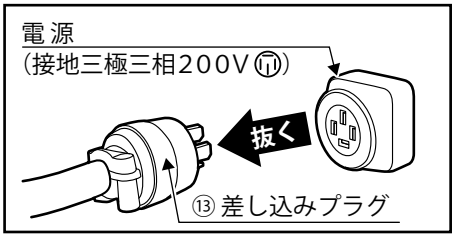
1．圧力スイッチをＯＦＦにします。



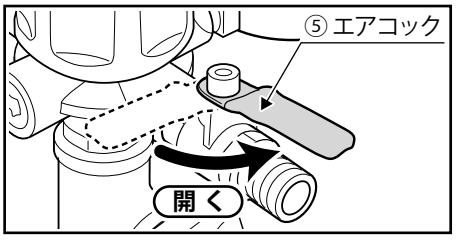
2．配線ボックスの電源スイッチをＯＦＦにします。



3．差し込みプラグを電源から抜きます。



④エアコックを開き、エアタンク内の圧縮空気を完全に抜いてください。



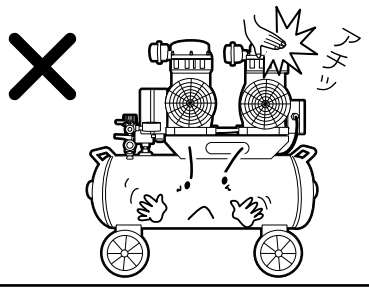
エアコックを開く際は、レギュレータの圧力計をご確認ください。
圧力計が０になっている場合は、エアコックを開いてもエアが出ません。レギュレータのツマミを回して圧力を上げてください。P17

⚠警告

圧縮空気を抜く時や、エアコック全開時は、顔をエアコック付近に近づけないでください。圧縮空気の排出によって、失明や耳を傷める恐れがあります。

⚠警告

運転時・運転直後の金属部は高温になっています。やけどの恐れがありますので絶対に素手で触らないでください。



※付属品のワンタッチカプラソケットを取り付けます。
エアコックを閉じて作業を行ってください。

ワンタッチカプラソケットの取り付け ※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

ワンタッチカプラソケットを取り付ける際は、エアタンクの中に圧縮空気が入っていないことを確認し、エアコックを閉じて作業を行ってください。

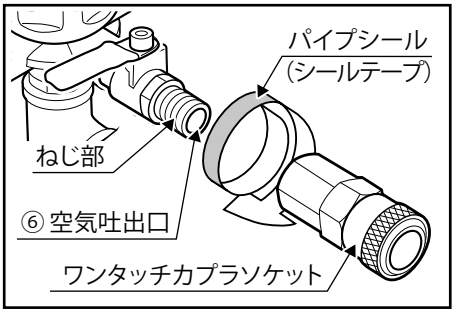
■ 付属品のワンタッチカプラソケットを取り付ける

準備するもの：スパナ

①付属品のパイプシール（シールテープ）をエアコックの空気吐出口のねじ部に、図の矢印の方向へ巻き付けてください。

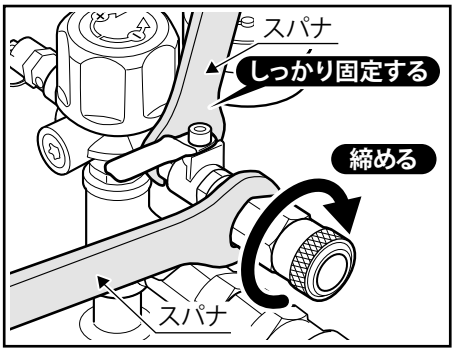
⚠注意

・パイプシール（シールテープ）がないと、エア漏れの原因となりますので、必ずパイプシール（シールテープ）を空気吐出口のねじ部に巻いてから、ワンタッチカプラソケットを取り付けてください。
・空気吐出口にパイプシール（シールテープ）がかからないよう、注意して巻き付けてください。



●矢印の方向に巻くこと。
●空気吐出口にパイプシール（シールテープ）がかからないよう、注意すること。

②付属品のワンタッチカプラソケットを、空気吐出口にスパナで取り付けます。エアコック側も別のスパナで固定し、しっかりと取り付けてください。

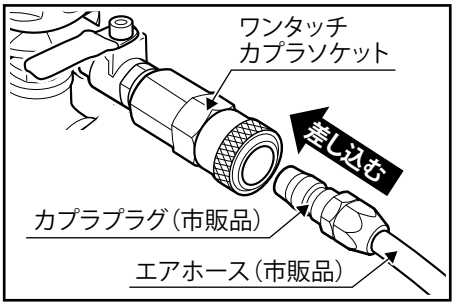


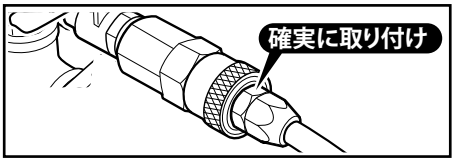
■ 市販のエアホースを取り付ける

エアホースのカプラプラグをワンタッチカプラソケットへ差し込んでください。
しっかりと奥まで差し込み、ワンタッチカプラソケットのリング部分が手前へ出たら、接続完了です。カプラプラグを引いてみて、外れないことを確認してください。

⚠注意

エアホースのカプラプラグは、確実にワンタッチカプラソケットへ接続してください。接続が完全でないと、事故やけがの恐れがあります。





使用する

■エアタンク内に圧縮空気を溜める

運転手順

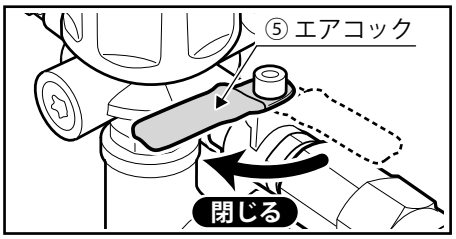
※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

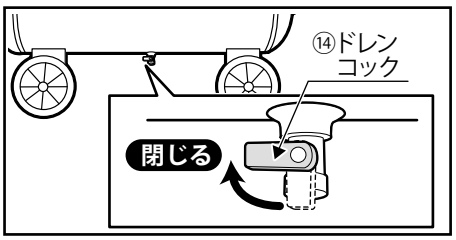
毎回運転の前に、空気吐出口またはドレンコックを全開にして、３分程度の運転（無負荷運転）を行ってください。

■ エアタンク内に圧縮空気を溜める

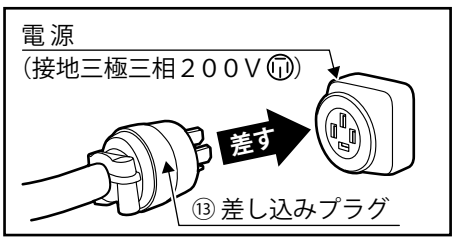
使用するエアツールの取扱説明書に従い、エアホースにエアツールを接続してください。
エアツールの接続が完了したら、圧縮空気をエアタンク内に溜めます。

①エアコックとドレンコック（2ヵ所）が閉じていることを確認してください。

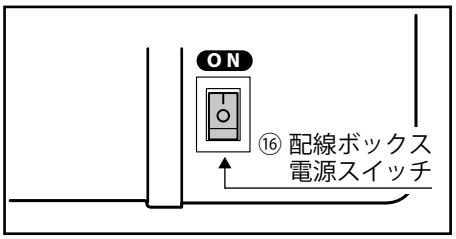




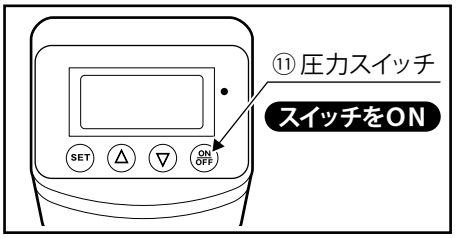
②差し込みプラグを電源（接地三極三相２００Ｖ㊁）に差し込みます。



③配線ボックス電源スイッチをＯＮにし、圧力スイッチをＯＮにしてください。モータが作動し、圧縮空気を作り始めます。
タンク内の圧力が約0.8MPaになると、自動的にモータが停止します。



※これで全ての点検と準備が完了しました。
エアコックを開き、使用するエアツールの取扱説明書に従って、作業を開始してください。



■２つの圧力計について
■レギュレータについて

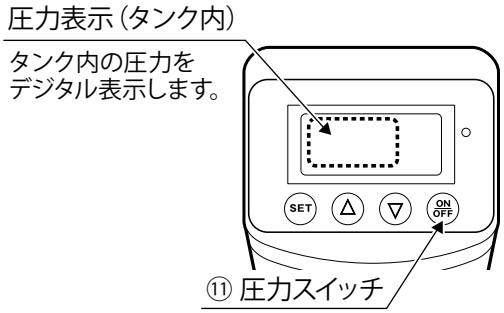
使用するにあたって

※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

■２つの圧力について

「タンク内」の圧力は圧力スイッチのモニタ上にデジタル表示されます。

「レギュレータ」用の圧力は圧力計（レギュレータ）に表示されます。
下図を参考に、作業の目安としてください。



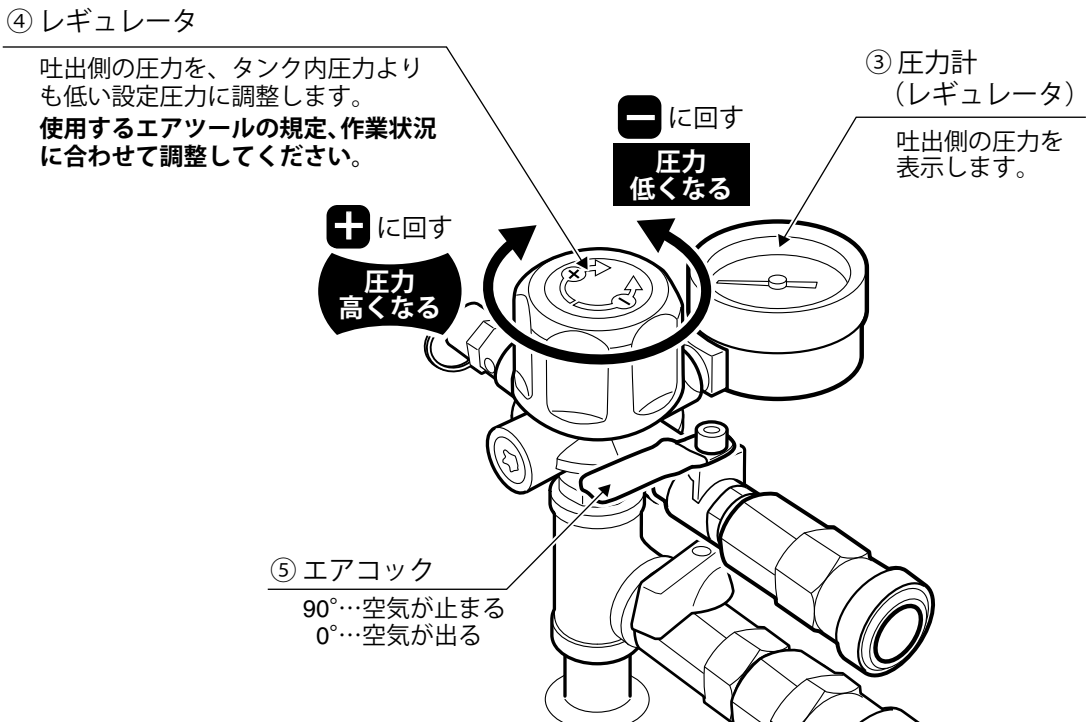
■レギュレータについて

レギュレータは、吐出される圧縮空気の圧力を調整します。
エアツールにはいろいろな種類がありますので、必ず使用するエアツールに応じ、指定された使用空気圧力の範囲内でご使用ください。

①エアコックが閉じていることを確認してください。

②圧力計（レギュレータ）を確認しながらレギュレータを回し、吐出圧力の調整を行ってください。

◎レギュレータを右（＋）に回す … 吐出圧力が高くなる
◎レギュレータを左（－）に回す … 吐出圧力が低くなる



作業を終了させる

■終了手順
■エアホースを抜く

終了手順

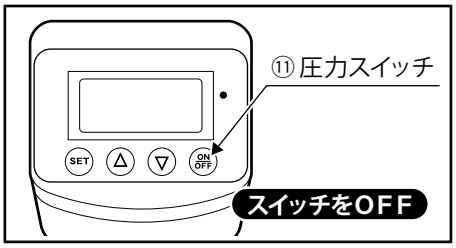
※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

■ 終了手順

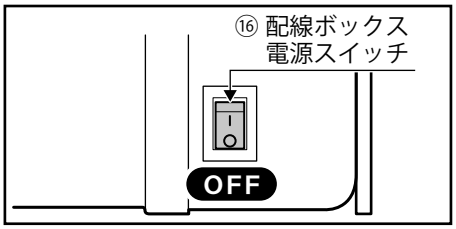
※作業終了後、必ずエアタンク内の圧縮空気は全て使い切ってください。

①次の手順で電源を切ってください。

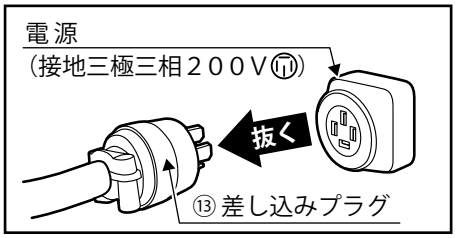
1．圧力スイッチをＯＦＦにします。



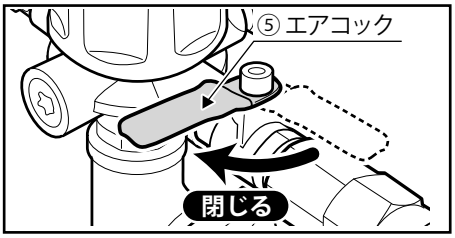
2．配線ボックス電源スイッチをＯＦＦにします。



3．差し込みプラグを電源から抜きます。



②エアタンク内の圧縮空気を全て使い切り、エアコックを閉じてください。

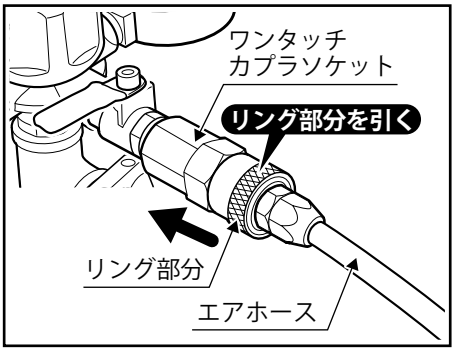


⚠警告

エアタンク内のエアは全て使い切ってください。

■ エアホースを抜く

ワンタッチカプラソケットのリング部分を引いて、エアホースを抜きます。



⚠警告

- エアホースを抜く前にエアタンク内のエアは全て使い切ってください。
- エアホース内に残圧が残っていると圧縮空気の力でエアホースが跳ね、けがや事故の恐れがあります。

※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

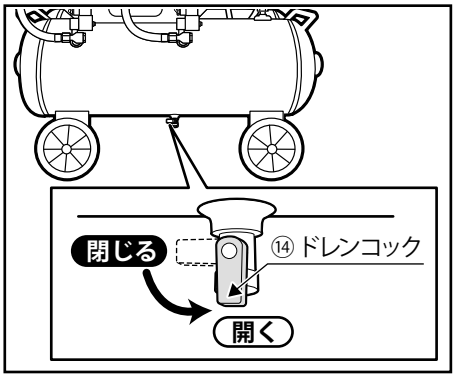
■エアタンク内のドレン（水）を抜く

※必ずエアタンク内に圧縮空気が入っていないことを確認してください。

エアタンクの下部に付いているドレンコック（2ケ所）からドレンを抜きます。

①ドレンコックからサビが混ざった水が出ます。ドレンコックの下に、ドレンを受けるためのトレイなどを置いてください。

②ドレンコックをゆっくりと開き、ドレンを抜いてください。



⚠警告

- **必ずドレンを抜く前にエアタンク内の圧縮空気は全て使い切ってください。**
  圧縮空気が入っている状態でドレンを抜くと、事故やけがの恐れがあります。
- **使用後は毎回必ずドレンを排出してください。**
  ドレン抜きを行わないと、エアタンク内に水が溜まり、それが圧縮空気と一緒にエアホースを通ってエアツールに運ばれ、故障やサビの原因になります。
- **ドレンを抜く場合は、顔をドレンコックに近づけないでください。**
  タンク内の残圧やドレンの排出によって失明や耳を傷める恐れがあります。

⚠注意

エアコックから圧縮空気を抜く場合は、空気吐出口にワンタッチカプラソケットが付いていないかお確かめください。
ワンタッチカプラソケットが付いていると、エアコックを開いても圧縮空気は出てきません。その場合は、ワンタッチカプラソケットを外してからエアコックより圧縮空気を抜いてください。

エアツールの接続例

※エアツールにはいろいろな種類の工具があります。それと共に、コンプレッサ用のさまざまなエアパーツ（ホース・継手など）がございますので、お買い求めの際は接続径をご確認ください。

ダスタ
圧縮空気の力を利用してちりやほこりを吹き飛ばします。エアのみ噴出する最もポピュラーなタイプです。

エアスプレーガン
圧縮空気の力を利用し、金属・木工・プラスチック等の表面塗装が行えます。

オイル給油不要

エアインパクトレンチ
エアモータの回転力でボルトやナットに衝撃を加えて回転させ、強い力で締め付けや緩めることができます。

エアグラインダ
エアコンプレッサで圧縮された空気を使って、エアモータの回転力を砥石に伝え、研磨・研削作業を簡単に早く行うための工具です。

エアドリル
電動ドリルと同様に、エアモータの回転力で穴を開けるための工具です。

エアカッタ
エアモータの回転力を切断部のカッタに伝え、いろいろな金属板を高速で切断する工具です。

オイル給油必要

カプラソケット ウレタンホース用
ワンタッチでカプラプラグとの接続が可能です。
ホースバンドでの固定が不要です。

ミニエアダスタ
軽量で使い易く、ワンタッチで作業ができます。
オイル給油不要

ウレタンホース

ウレタンチューブ

ウレタンチューブ チューブ用継手
軽量なので、小型エアツールに最適です。

エア経路がワンタッチで分岐可能。

ペアカプラ

レギュレータでの調整圧力の確認に必要です。

圧力計

レギュレータ
圧縮空気の圧力調整に必要です。

オイラ
圧縮空気と一緒にオイルを供給しツールの潤滑を行います。

ビニールホース

圧縮空気

エアドライヤ
乾燥したエアの供給に

圧縮空気

エアフィルタ
圧縮空気中の水滴やダスト油の除去に

カプラソケット ビニールホース用
ワンタッチでカプラプラグとの接続が可能です。
ホースバンドでの固定が必要です。

※ホース口での接続は、ホースバンドで締め付けます。

※ねじの接続には、パイプシール（シールテープ）を巻きます。

故障かな？と思ったら

●次のチェックリストに沿って点検を行ってください。

症　状	原　因	解 決 方 法
エアコンプレッサが作動しない。	①差し込みプラグが外れている。	①差し込みプラグを正しく電源に差し込んでください。
	②サーキットブレーカが働いている。	②圧力スイッチをOFFにし、配線ボックス電源スイッチをＯＦＦにしてから、差し込みプラグを電源から抜いてください。 ３～５分待った後、配線ボックス上部のねじをゆるめ、カバーを開けます。 配線ボックス内のリセットボタンを押してください。 P11
	③圧力スイッチの電源が入っていない。	③圧力スイッチの電源を入れてください。 P13・16
圧力が上がらない、圧力が低い。	①エア漏れ。	①各部の締め付け等を確認してください。
	②エアフィルタ（吸気口用）が汚れている。	②エアフィルタ（吸気口用）を清掃してください。 汚れが著しい時は、新しいものに交換してください。（別売もございます。） P9・22
	③エアタンク内に水(ドレン)が溜まっている。	③ドレンコックよりエアタンク内の水（ドレン）を抜いてください。 P19
	④安全弁からの空気漏れ。	④安全弁の交換が必要です。お買い求めの販売店または当社にご連絡ください。 P10

※これらのチェックを行っても正常に作動しない場合や、不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または当社までご連絡ください。
お問い合わせや、ご連絡がないまま直接当社に修理品などを送付されても、処理、対応ができない場合がありますので、ご了承ください。

保守と点検

※本機の性能を維持するため、定期的に保守・点検を行ってください。

■エアフィルタ（吸気口用）の点検
■保管について

保守と点検

※各部名称、番号はＰ７～９をご参照ください。

■ エアフィルタ（吸気口用）の点検

※点検の際は必ず圧力スイッチをＯＦＦにし、配線ボックス電源スイッチをＯＦＦにしてから差し込みプラグを電源から抜いてください。

・エアフィルタ（吸気口用）は常に清潔にしてください。エアフィルタ（吸気口用）が汚れていると、空気量が減少し、エアコンプレッサの機能が低下します。

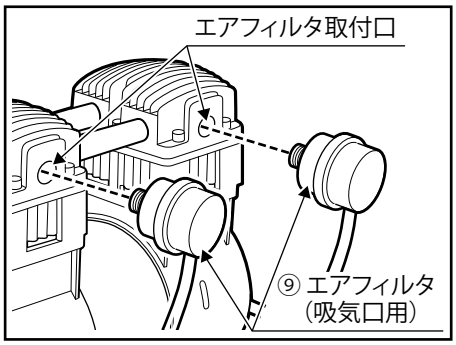
・エアフィルタ（吸気口用）が汚れている時は、以下の要領で清掃してください。

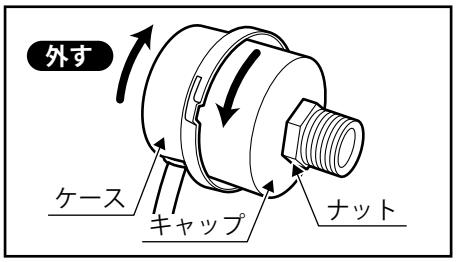
①エアフィルタを本体から取り外してください。

②キャップとケースは凹部と凸部で固定されています。図の矢印方向に回して外してください。

③中のエレメントの汚れをエアダスタやブロワなどの送風機で吹き飛ばしてください。

④汚れを吹き飛ばした後、再び取り付けて使用してください。





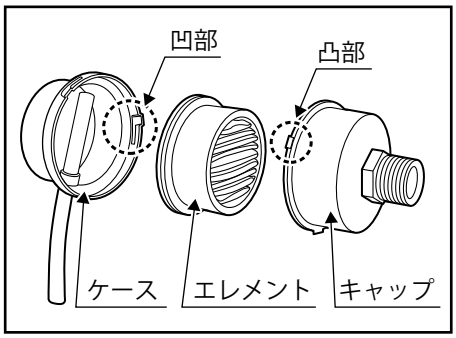
※本体からエアフィルタを取り外す際、ナットが空転する場合は、スパナを使用して取り付け・取り外しを行ってください。

■ エアフィルタ（吸気口用）の交換

※エアフィルタの汚れが著しく、空気吸入量が減少し、エアコンプレッサの能力が低下した際には、新しいエアフィルタと交換してください。

※新しいエアフィルタを、エアフィルタ差込口に取り付けてください。

●エアフィルタは別売もございます。P9



⚠注意

取り付ける際、エアフィルタ（吸気口用）には**パイプシール（シールテープ）を使用しないでください。**
使用中、空気と共にパイプシールの一部が吸い込まれて故障の原因となる恐れがあります。

■ 保管について

・使用しない場合は、きちんと保管してください。

・乾燥した場所で、お子様の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。

・長期間ご使用にならない場合は、保管前にドレンコックを全開にし、５分程度の運転を行ってください。

エアツール適合表

■エアツールの選定について

コンプレッサの能力よりもエアツールの空気消費量が多いと作業が順調にできなくなります。
コンプレッサの能力が低い（流量が少ない）機種は、待ち時間（充填時間）が長くなります。
タンク容量が小さければ、使用可能時間は短くなります。
下表を目安にエアツールを選定してください。

※この表は目安です。エアツールによってはこの表の通りにならないことがあります。
※作業の際は、必ず使用するエアツールの使用圧力・空気消費量等をご確認の上、用途に応じてお使いください。

★大気圧換算：0.1MPa≒1気圧（大気圧）

エアコンプレッサ			AG-3060NF	
仕様	最高使用圧力		約0.8MPa	
	再起動圧力		約0.6MPa	
	電動機出力		2.2kW（1.1kW×2基）	
	定格周波数		50Hz	60Hz
	流量（※参考値）	0.1MPa時	280L/min	300L/min
		0.2MPa時	250L/min	270L/min
		0.4MPa時	210L/min	230L/min
		0.6MPa時	170L/min	190L/min
		0.8MPa時	130L/min	150L/min
	タンク容量		60L	

エアツール	空気消費量（目安）	使用判断
エアインパクトレンチ（小型）	0.6MPa　約130L/min	◎
エアドリル	0.6MPa　約140L/min	◎
エアドライバ（強）	0.6MPa　約90L/min	◎
エアハンマ	0.6MPa　約110L/min	◎
エアカッタ・エアニブラ	0.6MPa　約110L/min	◎
エアグラインダ	0.6MPa　約85L/min	◎
スプレーガン	0.4MPa　約70L/min	◎
ブロワガン	0.4MPa　約60L/min	◎
エアマイクログラインダ	0.6MPa　約30L/min	◎
エアタッカ・フィニッシュネイラ	0.5MPa　（単発使用）	◎
エアグリスガン	0.6MPa　（単発使用）	◎
エアブラシ	0.2MPa　約20L/min	◎
エアダスタ・エアプレッシャーゲージ	簡易清掃作業、タイヤ・ゴムボート等の空気入れ、空気圧調整など	◎

◎：断続使用（最適）／△：断続使用（可）／×：使用困難

保証書

保証期間内に取扱説明書等の注意書きにしたがって正常な状態で使用し、故障した場合には、お買い上げの販売店に本書をご提示の上、修理をご依頼ください。

品　　名		オイルレスエアコンプレッサ	型　　式	AG-3060NF
お買い上げ日※		年　　月　　日	保証期間	6ヶ月
お客様※	ご住所	〒		
	ご氏名	様		
	電話番号	-（　　）-		
販売店※	住　　所 店　　名 電話番号			

※印欄に記入のない場合は、無効となりますので、必ずご確認ください。

1．保証期間内でも次のような場合には有償修理になります。

①本書の提示がない場合。
②本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合。あるいは文字を書き替えられた場合。
③使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
④お買い上げ後の落下、引越し、輸送等による故障及び損傷。
⑤火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、公害や異常電圧による故障及び損傷。
⑥一般家庭用以外（例えば、業務用の長時間使用、車輌、船舶への搭載）に使用された場合の故障及び損傷。
⑦リサイクル業者や、使用者等による再販など、当社の責任範囲を超える場合。
⑧日本国外での使用。

2．本書は、再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

3．本書は、日本国内においてのみ有効です。

株式会社パオック
〒955-0061 新潟県三条市林町2-5-21
TEL:(0256)33-5574　FAX:(0256)33-5559
URL https://www.paock.co.jp

E321-K　　2606

圧力スイッチの使用方法

株式会社パオック
〒955-0061 新潟県三条市林町2-5-21
TEL:(0256)33-5574 FAX:(0256)33-5559
URL https://www.paock.co.jp
H513-Q

開梱後のご注意　**意図しない設定変更を防ぐため、始動前に「1. キー操作のロック」を行ってください。**

1. キー操作のロック・解除

※取扱説明書のP13 ①-1〜2の手順に従い、配線ボックススイッチをONにしてください。

◆ キー操作をロックする

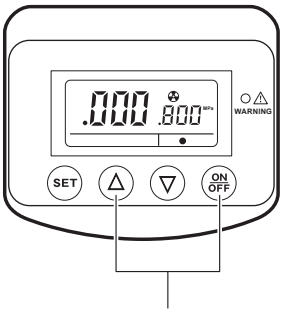
① [ON/OFF] と [△] を同時に長押しします。
② 「ON LOCK」と表示され、キー操作がロックされます。

◆ キー操作のロックを解除する

① [ON/OFF] と [△] を同時押しします。
② 4 桁のパスコードを入力します。※出荷時のパスコードは「0000」です。

[△／▽]：数字切替　　[ON/OFF]：桁数移動　　[SET]：決定

③ 「OFF LOCK」と表示され、ロックが解除されます。
※ パスコードの変更は、裏面の【4. 各種設定：F2 キーロック設定】の手順で行ってください。



[△] [ON/OFF] 同時長押し
↓
キー操作ロック

⚠ 注意

各種設定変更操作が完了したら、必ず毎回キーロックを行ってください。
意図しない設定変更による、故障や事故の原因となります。

2. 最高圧力・再起動圧力の設定

[SET]：圧力設定モード

Hi-P　最高圧力　（この圧力に達するとモータが停止）
Lo-P　再起動圧力（この圧力まで下がるとモータが再起動）

① [SET] を押し、Hi-P または Lo-P を切り替えます。（圧力設定モード）
② [△／▽] を押し、任意の圧力値を設定します。　*[SET]：Hi-P / Lo-P 切替　　[△／▽]：数字切替*
③ 圧力値の設定が完了したら [SET] を押し、「Hi-P」を初期表示として表示させてください。
※ 無操作状態が約 5 秒続くと、自動的に圧力設定モードを終えます。

⚠ 注意

- 最高圧力の設定は0.8MPaを超えないでください。
- モータの再起動回数が15回／時間 以内となる範囲で設定してください。
  頻繁に再起動するような使い方は、モータに大きな負荷を与えてしまいます。

3. エラー表示と対処方法

エラー表示	エラー名称	エラー内容	対処方法
Err1	残留圧力エラー	ゼロ点調整時の圧力が高すぎる	タンク内の残圧を抜く
Err5	パスワード入力エラー	パスワード不一致	正しいパスワードを入力する
UP	使用圧力異常	設定上限値に到達	Hi-P値を調整する
DOWN	使用圧力異常	設定下限値に到達 または、停止圧力が起動圧力より低い	Lo-P値を調整する
FULL	圧力過大	センサー測定範囲を超えている	圧力を下げる
WARNINGランプ常時点灯	過圧	圧力がHi-P設定値を超えた	圧力を下げる
WARNINGランプ点滅	低圧保護	圧力不足、エア漏れ等の異常	配管の気密性や負荷状態を確認する またはHi-P、Lo-P値を調整する
LOCK	キーロック	ボタンがロックされている	指定のキー操作で解除する

4. 各種設定　*[SET] 長押し：F1 ～ F5 順次切替*

◆ F1：動作モード設定

- AUTO：自動的に設定した最高圧力（Hi-P）で停止、再起動圧力（Lo-P）で再起動します。
- HAND：運転、停止を手動で行います。

[△／▽]：モード切替　　[SET]：決定

◆ F2：キーロック設定

- EASY：キーロックを行いません。
- CODE：キーロックを行います。

[△／▽]：モード切替　　[ON/OFF]：パスコード設定　　[SET]：決定

パスコード設定手順

① 「CODE」表示の状態で［ON/OFF］ボタンを押します。
② 4 桁のパスコード設定画面に切り替わります。
③ 任意の 4 桁のパスコードを設定します。

[△／▽]：数字切替　　[ON/OFF]：桁数移動　　[SET]：決定

⚠ 注意

設定した4桁のパスコードは忘れないよう、必ず控えておいてください。
パスコードを忘れてしまった場合、解除する方法はありません。

◆ F3：単位設定

- 設定可能単位：MPa　※［PSI］［kgf］は使用不可

[△／▽]：単位切替　　[SET]：決定

⚠ 注意

［MPa］以外の単位で使用しないでください。

◆ F4：初期通電設定

- R on　：コンセントを挿した瞬間に、圧力スイッチが「ON」状態　※使用不可
- R oFF：コンセントを挿した瞬間に、圧力スイッチが「OFF」状態

[△／▽]：設定切替　　[SET]：決定

⚠ 注意

R oFF設定で使用してください。
R on設定で使用すると、製品の電源が意図せず突然入り、事故やけがの原因となります。

◆ F5：接点切替設定

- R nc：圧力スイッチ表示が「ON」の時に電源が入る設定（ノーマルクローズ）
- R no：圧力スイッチ表示が「OFF」の時に電源が入る設定（ノーマルオープン）　※使用不可

[△／▽]：設定切替　　[SET]：決定

⚠ 注意

R nc設定で使用してください。
R no設定で使用すると、動作モードがAUTO設定されていても、設定したHi-Pで自動停止しません。事故やけがの原因となります。

5. 積算時計

［ON/OFF］と［SET］を同時押しすることで、圧力スイッチが「ON」となっていた累計時間が確認できます。メンテナンスの目安としてご利用ください。